

70
65
60
55
50
45
40
35

尾上のかね由來

柳尾上の燈に十八人皇十五代神功皇后三轉より神凱陣
の時神さげ奉りまるとして遠くまきゆり申りけり
うごひまのめ共寄りかゝりて遠くまきゆり申りけり
海上三里よりて宮のおどろ名づく此鐘赤銅なるふし
後土御門院應仁武平の乱世に海賊出ぬまきゆりて船と出
土佐の國ありとて此みまきゆりて船と出
船と申り久さんとて城狭かこれとおもひて鐘のふしとて

高サ 三尺貳寸
圍ミ 七尺七寸
厚サ 壹寸九分
徑リ 二尺五寸
疵 三十六
花形 四寸



勝中小と竹ありて新成のたれりて後海面より産く光りの
物よりとて火細へけふけ鐘のむきかからしむねまきゆり
き野山とての鐘のけりて酒人もと物とてけりてとて
まき小尾上とてけりて且まきゆりの不思議なりける
かよとて野山より産く一物めりて後より自然とて
いしとて四方よりけりて今ふまきゆりて社神宮の中へて男女二
様も病者災難とてのけりて律賢の奇特とて社傳有る

名産鐘指 扇子半切短冊色紙手盞渡紙

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19